

都市再生整備計画事後評価シート  
厚別副都心地区

平成23年3月

北海道札幌市

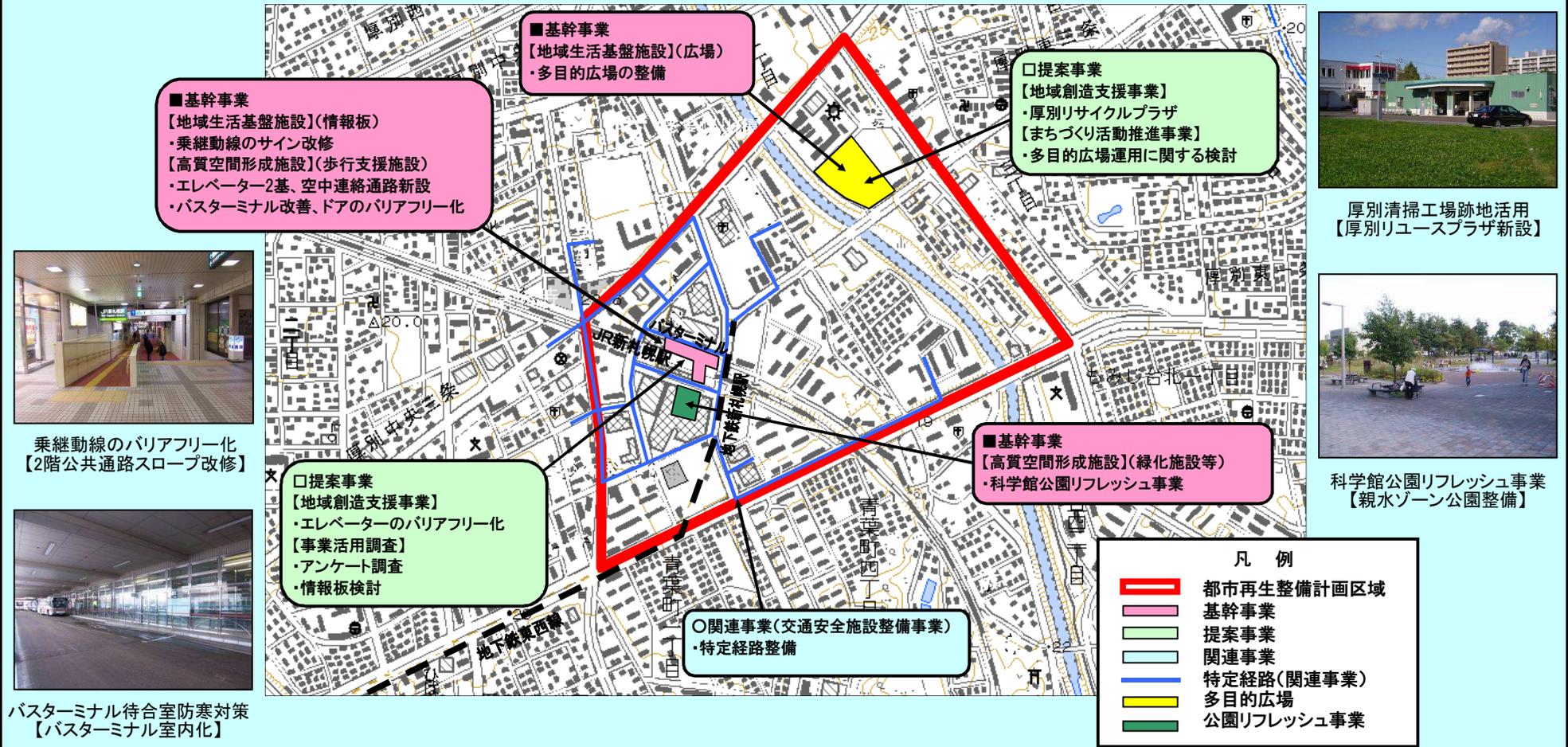
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	北海道		市町村名	札幌市		地区名	厚別副都心地区			面積	72.4ha		
交付期間	平成19年度～平成22年度		事後評価実施時期	平成22年度		交付対象事業費	950百万円	国費率	0.400				
1)事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(乗継動線のサイン改修)、高質空間形成施設(公共通路・バスターミナルの改善、乗継動線のバリアフリー化)										
		提案事業	地域創造支援事業(エレベーターのバリアフリー化)、事業活用調査(アンケート調査、情報板検討)、まちづくり活動推進事業(広場空間の検討)										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし										
		提案事業	なし										
	新たに追加した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(多目的広場の整備)			一体的なまちづくり及び活気あるまちづくりを目的とした、清掃工場跡地の活用による広場整備を追加			リサイクルプラザ利用者数を計る指標(指標4)を追加設定				
高質空間形成施設(科学館公園の緑化施設等整備)			公園とそれを囲む公共施設・道路の一体化利用を図るとともに、交通結節点としてのアメニティの向上を図るため「親水施設を中心としたたまり空間」の整備を追加			交通結節点のアメニティの向上に関する目標に貢献する。							
提案事業		地域創造支援事業(リサイクルプラザの整備)			地域コミュニティの活性化及びまちの賑わいを高めるため、「環境やまちづくり」の意識向上を目指した市民活動型リサイクル拠点の整備を追加			リサイクルプラザ利用者数を計る指標(指標4)を追加設定					
交付期間の変更	当初	平成19年度～22年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			—						
	変更	—		—			—						
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標1	乗継アクセス時間	分	25	H19	10	H22	—	8	○	あり	地下鉄からバスまでの乗継動線は、一旦地上に出て歩道を通る必要があり、遠回りかつわかりにくい経路であったが、EVの新設により移動距離、所要時間が大幅に短縮されるとともに、経路がシンプルで分かりやすくなり、利便性が向上した。	H23年5月
	指標2	乗継動線のバリアフリー化率	%	30	H19	100	H22	—	100	○	あり	従前は車椅子で乗り換えられるのが地下鉄～バス間のみであったが、EV及び空中通路連絡、スロープの整備による全ての交通機関相互の乗継動線のバリアフリー化が図られた。	H23年5月
	指標3	施設利用満足度	%	30	H15	60	H22	40	70	○	あり	EVやスロープの新設・改修、並びに防寒対策による風除サッシの設置など、バスターミナル及び2階公共通路の施設改善によって、当該施設利用者の満足度が高まったものと考えられる。	
	指標4	施設利用者数	人/年	0	H17	10,000	H22	—	30,942	○	あり	多目的広場の整備やイベント開催などの相乗効果となり、厚別リユースプラザの利用者数が目標値を大きく上回る結果となったと考えられる。	H23年5月
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	その他の数値指標1	乗継移動経路に関する満足度	%	30	H21			—	60			EV、空中連絡通路や案内サインの整備によって、公共交通機関相互の乗継動線が分かりやすくなり、満足度が高まったものと考えられる。	H23年5月
4)定性的な効果発現状況	<p>・情報板検討や事後評価で実施した、公共交通施設アンケート調査のバリアフリー化関連では、スロープの勾配や床が改善され歩きやすくなったとの意見が寄せられた。また、現在の副都心の街の印象など様々な意見が寄せられ、市民のまちづくりに対する意識が向上した。</p> <p>・市民がワークショップに参加し、清掃工場跡地の活用や公園のリフレッシュ計画に関わったことによって、市民のまちづくりへの意欲が向上し、パークゴルフ場(多目的広場)や科学館公園の施設利用者が増えている。</p>												
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	指標3のモニタリングとしてバスターミナルと公共通路に関する満足度に関するアンケート調査を実施		都市再生整備計画に記載し、実施できた				●					
				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				●					
	住民参加プロセス	「厚別区まちづくり協議会」との情報交流や意見交換		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●					
都市再生整備計画に記載し、実施できた				●									
持続的なまちづくり体制の構築	なし		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				●						
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●						

## 様式2-2 地区の概要

厚別副都心地区(北海道札幌市) 都市再生整備計画事業 成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
誰にでも分かりやすく、使いやすい賑わいのあるまちづくり ① 交通結節点のバリアフリー化 ② 交通結節点のアメニティの向上	乗継アクセス時間 単位:分	25 H19	10 H22	8 H22
	乗継動線のバリアフリー化率 単位:%	30 H19	100 H22	100 H22
	施設利用満足度 単位:%	30 H15	60 H22	70 H22
	施設利用者数 単位:人/年	0 H17	10,000 H22	30,942 H22



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>厚別副都心地区の問題・課題のうち公共交通機関相互の「乗継経路の分かりやすさ」「乗継動線のバリアフリー化」などについて、従前と大きく改善された。交通結節点として利便性が大きく向上した。</li> <li>厚別リユースプラザや科学館公園を再生(親水ゾーン整備)したことにより、アメニティが向上し、賑わいのある交通結節点となった。</li> </ul>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通結節点として、主たるバリアフリー化の基盤整備(ハード)がほぼ完了した。今後、効果を持続していく方策(ソフト)として、情報提供や啓発活動を推進していく。</li> <li>街づくりとして、駐輪施設や副都心の顔となる「たまり空間」など検討していく必要がある。</li> <li>ごみ減量啓発普及拠点として、整備(ハード)が完了した。今後、ごみの減量・リサイクルの意識を高めていく取組みを推進する。</li> </ul>